opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 -33

リアルプの森で5日間待機した後、11月28日の日没に行軍が始まりました。夜間に行進し、昼間は家畜小屋などで隠れて過ごします。5日間、標高差600メートル前後の山道を上り下りしました。

2023/12/28

過去の記事はこちらから

リアルプの森で5日間待機した後、 11月28日の日没に行軍が始まりまし た。ある洞窟に到着すると一人の若 者が現れました。名前はアントニオ だと言い、皆に向かって「俺が隊長 だ。一列になって歩く。話さない。 指令は先頭の奴に言う。それを前か ら後ろに伝える。誰かが列から離れ たり歩けなくなったりしたら、そこ に置いておく」と言いました。グ ループの人数は20人あまり。行進が 再開され夜明け前に切り立った崖の 下に着きました。日曜日でした。聖 ホセマリアはそこで岩を祭壇にして ミサを立てました。前年の7月から ミサに参加した者は誰もいませんで した。ある若者が日記にこう書いて います。「この旅で最も感動的なこ とが起こった。ミサだ。・・今日の ようなミサを見たことがない。極限 状態だったからか、司祭が聖人だか らか、僕には分からないし。

夜間に行進し、昼間は家畜小屋などで隠れて過ごします。5日間、標高 差600メートル前後の山道を上り下

りしました。斜面を滑ったり転んだ り、谷川では靴が水浸しに。手は草 木の棘で傷だらけに。突然隊長が消 える。安全を確かめに行くのです が、その間は木々の影にじっと隠れ ておかねばなりません。疲労と寒さ と空腹のため動けなくなる者も出て きました。まず、トマス・アルビラ が倒れ一歩も動けなくなりました。 隊長は先に進もうとします。しか し、聖ホセマリアがなんとか説得 し、トマスを助けました。別の日に は神父自身が。このときは若いメン バーが彼を担いで行進しました。

彼らは、神父がほとんど眠らず祈っていることに気づきました。また、神父は時々配られる元気づけの砂糖入りのブドウ酒や食べ物や、休息の時の毛布を周りに譲るのです。神父が最後まで歩き続けることができたのは信じがたいことだと言えます。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-33/ (2025/11/21)